

第5学年図画工作科学習指導案

題材 ～ほって 刷って～
「菊 わたしの友達」

指導観

○ 本題材は、菊を育てた経験から心に残った喜びや苦労をもとに表したいことを発想し、彫刻刀の彫りの効果を生かしながら楽しむとともに、木版表現のよさや面白さ、美しさを味わうことがねらいである。

本題材を子ども達が取り組む上で、次のような価値があると考えます。

- ① 子どもの菊づくりの体験から題材を選定することで児童にとって興味・関心があり、表現意欲を喚起することができるとともに想像をふくらませながら版の画面の構成を操作しながら考えることができる。
 - ② 表したいことをはっきりと表すための黒白の構成や裏彩色を工夫することによって主題表現への発想や構成的な美しさへの意識を喚起するとともに、版木や彫刻刀の扱いを通して表現の楽しさを味わったり創造的な技能を高めたりすることができる。
 - ③ 制作途中や終末段階で、作品の交流をすることで自分や友達の作品のよさや表現の違いに気付き、表現のよさを味わうことができる。
- 本学級の子ども達は、1学期に題材心広がる場面「銀河鉄道の夜」の学習で、心に残ったことを想像し水彩絵の具を使って絵に表した経験がある。この学習では、画面をどのようにすれば自分の表したいことがはっきりとすることができるかや表したいことが明確になるような水彩絵の具の効果的な表現を自分なりに工夫した。しかし、画面の構成や絵の具の扱い方に慣れておらず、表現への意欲は向上してきたが、自分の思いを十分に生かす構成の工夫や絵の具を使った表現は十分とはいえない。図工のアンケート調査結果では、89%の子どもが「図工が好き」と答えており、子ども達の図工に対する興味・関心は高いといえる。しかし、その一方で36人中「版に表す」ことに27人、「絵に表す」ことに18人の子どもが苦手意識をもっているという実態がある。また、子ども達が「絵に表す」活動において有効だと感じる手立てについては、子どもへの個別のアドバイスや教師の提示する資料が役に立つと考える子どもが多いことがわかった。
- 本題材の指導と評価にあたっては、まず、指導事項を整理し、本題材における指導内容を明確にし、具体的な評価規準を設定する。題材との出会わせ方では、菊づくりの経験を菊の花やビデオなどの視覚資料をもとに豊かに想起し、表現意欲や表したい主題が明確になるようにする。そして、表したい主題を明確にする画面の構成や白黒の構成、彫刻刀の彫りの工夫について、子どもの思いを聞きながら資料の準備や活動の演示などをしていきたい。制作の過程で鑑賞の交流を行い表現のよさのちがいに気付き、自分の表現に生かしていくようにしていく。

評価にあたっては、評価規準を具体的に設定し、評価をもとに指導の改善をしていく。

目標

- 菊を育てた経験の中で心に残ったことを思い浮かべ、進んで版に表そうとする。
(造形への関心・意欲・態度)
- 菊を育てた経験から、自分が表したいことを思い付き、表したいことが明確になるように画面の構成を工夫することができる。
(発想や構想の能力)
- 自分の表したいことをより明確にするために、彫刻刀の彫りの違いによる効果を生かし、工夫しながら彫ることができる。
(創造的な技能)
- 作品をもとに友達と話し合い、自分の作品のよさや友達との表現の違いに気付き、木版画のよさ、絵の具の着彩による効果を味わうことができる。
(鑑賞の能力)

「ほって 刷って」の指導事項

A表現（2） 表したいことを絵や立体に表現したり，工作に表したりする	
学指導要領における指導事項	教科書による指導事項
<p>ア 表したいことを表すために，形や色，材料の特徴や構成の美しさなどの感じ，つくるものの用途などを考えるとともに，表し方を構想し計画して，創造的な技能などを生かして表現すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かい表現を楽しむ児童，装飾的な表現を好む児童，立体的な表現を楽しむ児童など一人一人の表現を共感的に受け止め，造形的な資質や能力を高めるようにすることが大切。 ・「表したいことを表す」とは，児童が表したいことを見付け，それをもとに一人一人のよさや可能性を発揮する表現活動をする。 ・児童に表現する内容を大きく捉えて提案すること，児童が自在に発想し，画用紙や材料，用具なども自分で選べるようにすることが児童が表したいことを見付ける機会になる。 ・「形や色，材料の特徴や構成の美しさなどの感じ」とは，形や色，材料などの特徴から発想する経験をしてきた児童が，組み合わせや構成の美しさや面白さを楽しく考えるようにする。 ・「構成の美しさなどの感じ」は，形や色，材料の組み合わせを通して，色の調子の柔らかい感じや形や色の調和的な配置の面白い感じ，動きの感じのこと。 ・「つくるものの用途などを考える」とは，児童が自分のつくりたいものの用途や目的などを満たす条件などについて楽しく考えること。 ・つくるものの条件には，実際に使えるもの，自分の思いや意図を人に伝えるもの，大きな飾りにするものなどが考えられる。 ・つくるものの用途などを構想し計画する際に，材質の滑らかさ，色の多彩さ，丈夫さなど，よさや美しさなどを工夫するのにデザインの能力や創造的な工作の能力などを働かせる。 ・「創造的な技能などを生かし」とは，児童がそれまでに働かせ，伸ばした造形感覚や創造的な技能を一層働かせ，高めること。 ・児童が表したいことに合わせて，足りない材料を他のもので代用することや偶然見付けた方法を他の表現で試すこと，水彩絵の具を厚く塗り，それを削り取るなど表現方法を組み合わせること。 ・「創造的な技能など」の「など」は，創造的な技能に関連する造形感覚やデザインの能力などを指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・4年生での白黒版画の版で表現する技能的活動の経験を生かして，物語を読んでイメージしたことや，想像した世界を思い通りに版にしていく活動を味わうなどイメージをふくらませる。（主題） ・複数の刷った版紙に，異なった色の絵の具で彩色して，印象の違う作品を味わわせる。（材料・用具，表現方法） ・色の違いによって与える効果の違いを学ぶことで，白黒版で表した内容を彩色によってさらに自分が表したかった表現へと発展させる。（表現方法） ・線彫りによる版づくりを楽しむ。（表現方法） ・一般多色刷りの活動でどこにどのように配色するかを考え，徐々に刷っていく活動が楽しむ。（表現方法） ・彫刻刀で彫ったり，刷ったりしながら，徐々に変化していく楽しさを味わう。（材料・用具，表現方法） ・生活の中で感じたことや思ったこと，想像したことなどから主題を決め，表したい画面の構成をする。（主題，構想） ・どのような彫刻刀を使ったら効果的か考えながら，彫り進め，刷りの感じを確かめてさらに彫り，刷り重ねていくことができる（材料・用具，表現方法）

イ 表したいことに合わせて、前学年までに経験した材料や用具、自分が選んだ材料、糸のこぎりなどの特徴を生かして使い、表現に適した方法などを組み合わせながら、絵や立体に表現したり、工作に表したりすること。

- ・ものや人とかかわりも深まり、手などの働きにも巧みさが増し、扱う材料や用具の範囲も広がり、材料や用具、表し方を試し、その経験から発想する様子も見られる児童の造形活動の傾向をもとに、造形表現の自由さや自己実現的な楽しさを味わうようにすることが大切。
- ・「前学年までに経験した材料や用具」に加えて「自分で選んだ材料」は、同じ種類のものや様々な色のもの、形の面白いものだけを集めるなど一人一人の興味や関心、意図などがうかがえる。
- ・「糸のこぎり」は、曲線切りや切り抜きができ、その形から発想を広げ、つくりたいものを発想すること。
- ・児童が初めて使う用具については、使うこと自体楽しむようにするとともに、使うことによってできた材料の形などの面白さから発想を広げるようにすることが大切。
- ・前学年までに経験した用具については、使い方に慣れるようにするとともに、簡単な手入れをしたり、大切にしたりする習慣が身に付くようにすること。
- ・「表現に適した方法などを組み合わせながら」は、体験した色の組み合わせの感じを立体の材料の表面に移し換えて生かすことや工作に表す活動で面白い動きをつくった体験を、絵の表現に組み入れることなど。
- ・版による表現については、学校や地域の実態に応じて取り上げるようにすることが大切。
- ・前学年までに経験や児童の表したいことの広がりに応じて発展的に扱い、見通しをもって表すようにする。
- ・彫刻刀などの扱いは、安全に気を付けて指導する。
- ・紙版など他の版による表現は、これまでの経験を生かし、版で表す楽しさをもとに児童自ら表し方を工夫し発展させるような題材を取り上げるようにすること。
- ・焼成に適した粘土を使う表現については、学校や地域の実態に応じて取り上げる。簡単な絵付けをしたり、板状の粘土の上に形を付け素焼きしたりするなど、児童が工夫し楽しく表現できるようにすることが大切。

○刷ったものに色をたすと

- 作品名「花の世界にまよいこんだ。」35cm×45cm
- ・作品の縦と横の比を7：9で表している。（構想）
 - ・3・4年生での白黒版画の延長線上の作品。黒インクで刷ったあと、さらに思いを表したい方法として「刷ったものに色をたすと」が位置付けられている。（表現方法）
 - ・まず白と黒の制約された中で表し、どこを白くし黒くするか、彫った線の跡をどのように生かすかなどを考えて表現する。その後、表したいものに合わせて水彩絵の具の赤・青・黄・緑色で重色したり混色したりして表現している。（構想、表現方法）
 - ・主題を画面の中心に陽刻表現で大きく表している。（表現方法）
 - ・同じ丸刀を使っても彫り方を工夫することによって面で表したり線で表したり表れ方が変わることを知らせる。（材料・用具、表現方法）
 - ・丸刀と三角刀を中心に使い、それぞれの彫刻刀の彫りの効果を考え、使い分けたり彫り分けたりしている。（材料・用具、表現方法）
 - ・表したいイメージに添うように版紙の裏や面から水彩絵の具で効果的に彩色している。（表現方法）

○一ばん多色はんで

- 作品名「ねむれなかった夜」30cm×32cm
- ・学校の行事などでの思い出や日常生活の中で気付いたこと、知らせたいことを題材にしている。（主題）
 - ・画面を六分割して構成し、敷き布団の線や上にかかる布団の模様を丸刀を使って太い線で表し、仲良く並んでいる感じになるように構成を工夫している。（構想）
 - ・髪の毛、顔などは三角刀で丁寧に彫っている。（表現方法）
 - ・発色のよさや使いやすさの面からポスターカラーを使っている。（材料・用具）
 - ・ポスターカラーの紫・青・茶・橙・白色を使って表したい主題に合わせて配色を工夫している。（材料・用具）
 - ・効果的に表せるように白色を少し混色して発色の効果を確かめながら黒の画用紙に刷っている。（材料・用具）
 - ・黒の画用紙を線彫りした版の裏からセロハンテープでとめて、濃い色から順につけて、パレンでこする。（材料・用具、表現方法）

- ・工作に表すことから始める活動については、児童が美しさや用途、表し方などを楽しく考え、造形感覚やデザインの能力を働かせながら創造的な工作の技能を働かせるようにすることが大切。
- ・材料や表し方は、児童が表したいことに合わせて選び、試し、見付けたものを使うようにすること。

○ほり進み木はんで

「不思議な花がさく木。」45cm×30cm

「キャンプをしたよ。」30cm×45cm

- ・学校生活の中から感じたことや思ったこと、想像したことから題材を設定している。(主題)
- ・画面右に大きな木、後ろに窓を配置して緊張感のある視覚的な構成になっている。(構想)
- ・作品の縦と横の比を2:3で表している。(構想)
- ・事前に表す色や色の重なりを考えて、緑、灰色、橙、黒を使い濃い順につけてバレンでこする。(材料・用具、表現方法)
- ・彫刻刀は、切り出し刀、平刀、丸刀、三角刀の四種類を準備する。丸刀、三角刀を主に使って彫っている。(材料・用具)
- ・黄、赤、青インクを明るい順に刷る。(表現方法)

○ほり進み木はんにちょうせん

- ・彫り進み木版は、計画的に色を決めて制作する場合と、製作を進めながら色を決める場合がある。どちらの方法を選択するかは、児童のつくりたいものに合わせるようにする。(表現方法)
- ・彫り進み木版は、後戻りできないので、一版で3枚くらい刷っておく。(表現方法)
- ・ほり進み木版彫りと刷りの進め方を小さい版木で示している。①白くしたいところを彫る。②黄色のインクで刷る。③きれいに版をふく。④黄色を残したいところを彫る。⑤赤のインクで刷る。⑥きれいに版をふく。⑦赤色を残したい所を彫る。⑧青色のインクで刷る。⑨きれいに版をふく。⑩4色目からも同様の手順で進める(材料・用具、表現方法)

指導と評価の計画(全8時間)

	児童の活動	評価規準	学習活動における具体的評価規準	指導(活動提案・材料提供など)
生活体験をもと	<ul style="list-style-type: none"> ○ 参考作品や教科書の作品を見てさまざまな作品の工夫探しをする。 ○ 菊づくりのビデオや総合ノートを見て菊づくりの感動を話し合う。 ○ かきためたスケッチや写真などを参考にしながら菊づくりの経験の中で何を表すかを定める 	(関) 菊づくりの経験から表したいことを見つけ、版づくりや刷りの活動に興味をもち、自分や菊の形や色の世界に自らかかわって版にする活動を楽しもうとする。	<ul style="list-style-type: none"> ・参考作品や教科書の作品に興味をもって見たり話したりしている。 ・菊づくりの体験を思い起こし、版に表していくことに関心をもち、発表したりつぶやいたりしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・作品を鑑賞し、表現の主題や「どんなことを発想しているか」「材料の使い方の面白いところはどこか」など木版画のよさ、面白さ、美しさに気付くようにする。 ・菊づくりの体験をビデオや写真資料、菊の花を展示することにより五感に訴え、感動を呼び起こすような出会わ

<p>に線描きする活動</p>	<p>○ 菊の花びらの重なり, ガク, 茎, 葉っぱの形, 指の動きなどを自分の表したいことに合わせてスケッチをする。</p> <p>○ 表したい主題をはっきりさせるための画面を構成し下絵をかく。</p> <p>○ 自己評価をする。</p> <p>(2時間)</p>	<p>(発) 菊づくりの経験の中から, 喜びや苦勞など, 菊と自分とのかかわりで表したいことを発想する。</p> <p>(発) 菊と自分とのかかわりで表したいことを思い付き, 木版画の白と黒の表現を生かし, 主題が明確になるように, 中心になるものとまわりの様子を強調・省略して画面の構成を考える。</p> <p>(創) 菊を育てた経験から主題が明確に表れるように, 自分と菊との配置やまわりの様子を考え下絵を描いている。</p>	<p>・菊を育てた経験の中で, 自分が最も感動したことをはっきりとさせ, 何を版に表していくかを考え, 発表したり図工ノートに書いたりしている。</p> <p>・菊を育てた経験を思い起こしながら, 開花した喜びなどを表すための自分や菊の様子を思い付いている。</p> <p>・自分と菊との関わりで表したいことを効果的に表す自分や菊との関係を考えている。</p> <p>・菊と自分との関わりで表したいことを画面の中に効果的に表すために自分と菊との位置, 自分と菊との大小関係, 菊と菊との重なりなどを考えながら線描きしている。</p> <p>・菊のスケッチや30cm×45cmの枠を操作しながら, 自分の主題をはっきりと表すための画面の構成を考えて, 鉛筆やペンで自分の表したい様子を線描きしている。</p> <p>・画面の構成のためのヒント資料などを参考に, 自分と菊との関わりで自分の表したい思いがはっきり表れるように線描きしている。</p>	<p>せ方をするとともに木版画への意欲を喚起する。 陽 画</p> <p>・菊の苗を植えた時からの自分の気持ちや菊の様子についてビデオ, 総合ノート, スケッチ, 写真を見ながら菊づくりへの苦勞や喜びを想起するようにする。 画</p> <p>・菊づくりの写真資料や菊を展示して, 経験を振り返ったり形を確かめたり自由にできるようにしておく。 陽 画</p> <p>・表したいことをはっきりと表すためのヒント資料を提示して主題と周りとの関係(大きさ・高さ・強さ・重なりなど)の工夫に気付くようにする。 画</p> <p>・版木と同じ大きさの30cm×45cmの枠を用意し, 具体的な操作をしながら画面を構成できるようにする。 画 材</p> <p>・事前に個別の指導を図工ノートなどから準備しておくとともに, どのように表していきたいか子どもの思いを聞きながら相談にのりながら一人一人がはっきりと表したいことが構成できるように助言する。 画</p> <p>・学習後に下絵を掲示しておき, 友達の作品のよさや自分の表現との違いを確かめる。 陽</p>
-----------------	---	---	--	---

<p>生活体験を木版に表す活動</p>	<p>○ 下絵を版木に転写して墨入れする。</p> <p>○ 彫刻刀の種類と彫りの効果を資料をもとに話し合う。</p> <p>○ 主題が明確になるように、どこを、どれだけ、どんな感じに彫ればよいかを計画する。</p> <p>○ 計画的に彫りの効果を確認しながらねばり強く彫る</p> <p>○ 友達の作品を見て主題にそった彫りの工夫を交流して参考にする。</p> <p>○ 主題を明確にさせるための彫りを工夫して彫る。</p>	<p>(関) 彫る、刷るなどの版画の特徴と白と黒、絵の具による着彩の表し方に関心をもとうとする。</p> <p>(創) 表したいことが表れるように、菊や人物を彫刻刀の種類による彫り跡の効果を楽しみながら、彫刻刀を安全に使う。</p> <p>(創) 制作中、友達との作品の交流から思い付いたことを取り入れるなどして、自分の表したいことがより明確になるように、線の強弱や彫り跡の効果を考えて使い方を考えて表している。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 刷り上がりを予想しながら、主題がはっきりするように黒と白の割合や対比、線の太さ(強弱)を考えている。 ・ 彫りの長さ、方向、太さ、光の方向、空気の流れを考えながら彫りの計画を立てている。 ・ 三角刀、丸刀、平刀、切り出し刀などのちがいによる効果的な表現を考えながら彫っている。 ・ 顔や手足、菊の花や葉っぱなどを、刀を進める勢いや方向、彫りの強弱、深浅などを工夫しながら彫っている。 ・ 友達の作品のよいところを参考にしながら自分の作品に採り入れて表している。 ・ 彫りの後がどんな彫りになるのか予測できない場合、別の板で彫って確かめたり試している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 版材に下絵をカーボン紙で転写する。 ・ 転写後に墨入れをしておくことで彫りを計画的に進めていけるようにする。 ㊦ ㊧ ・ 黒：白＝7：3（2：1程度）のおおよその割合や教科書の作品や資料から彫刻刀の種類による彫りの効果のちがいに気付くようにする。 ・ 顔や手足、菊の花などの彫り方の資料を提示することによって表したい感じの表現の参考になるようにする。 ㊦ ・ 安全な彫刻刀の使用法を資料提示したり演示したりする。（必ず両手を使って彫る。版画作業台を工夫して使う。彫刻刀の削りくずが版木の下に入らないようにする。）また、資料を提示する。 ㊦ ・ 相互鑑賞により自分や友達の作品のよさやちがいをみつけ、自分の表現に生かすようにする。 ㊦ ・ 前時までの図工ノートや作品から、机間巡視をしながら子どもの思いを聞きながら相談にのったり演示したりする。 ㊦ ・ 彫りを試すための小さな版木を準備しておき自由に使えるようにしておく。 ㊦ ㊧
---------------------	---	--	--	---

	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と協力して版木、ねり板、ローラー、バレン、版画インキなどを準備し能率よく刷る場をつくる。 ○ 刷り具合を確かめながら丁寧に刷る。 ○ 版画紙の彩色を自分の表現に合わせて考える。 ○ 雑巾、新聞紙などを使って、丁寧に片付ける。 ○ 選択活動で自分のイメージに合うように版紙の表や裏側から色や描き方を工夫して彩色する。 ○ 自己評価をする <p style="text-align: center;">(5時間)</p>	<p>(創) 刷り紙、インク、ローラー、バレンなどの用具の扱い方を工夫して刷る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・インクやローラー、バレンなどの材料や用具の使い方を工夫しながら刷っている。 ・表したいことのイメージに添うように、水彩絵の具でにじませたりぼかしたりするなどして彩色している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主題を明確にするための彫りの工夫をしている子どもの作品を紹介してよさを広げようにする。 ・友達と協力して刷れるように、机の配置、用具の置き場所など活動しやすいように配置するようにする。 [場] ・インクの量、ローラー、バレンの使い方など印刷を丁寧に演示する。 [活] ・一人に複数枚刷らせ、版のよさを味わうようにする。 ・絵の具を使った着彩を紹介し、子どもに選択させるようにする。 ・布や新聞紙、へら、せっけん、手拭きタオルなどを準備して材料や用具へのお礼や次の人のために心をこめて後始末をするようにする。 ・図工ノートに学習のめあてにそってふり返るようにする。
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">作品を鑑賞する活動</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 友達と作品を見合い話し合う。 ○ 自己評価をする <p style="text-align: center;">(1時間)</p>	<p>(鑑) ○自分や友達の商品に関心を持ち、商品に込められた思いや白と黒、絵の具の着彩による相乗効果や構成の美しさを感じ取り、表現の違いやよさを味わう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品のよさを主題と白と黒の対比、彩色、彫りの工夫などと関連させながら発表している。 ・友達の作品について関心をもって見るとともに自分の作品とのちがいや表し方の工夫に関心をもって見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・彫りや刷りを生かしてどのように工夫して彩色したかなど自分なりの工夫したところを発表するようにする。 ・相互鑑賞により友達と自分の表現の違いを確かめると同時に、自分の表現のよさ、面白さを見つけ、表現の成果を自覚し自信をもつようにする。 [活]

本時目標

- 菊づくりの喜びや苦労を思い起こし、自分の思いがよく表れるように楽しんで取り組もうとしている。(造形への関心・意欲・態度)
- 菊づくりの喜びや苦労した経験から自分の表したいことを明確にするような画面を工夫して構想することができている。(発想や構想の能力)
- 自分の表したいことがより表れるように、自分と菊とのかかわりやまわりの様子などを考え、下絵をかくことができている。(創造的な技能)
- 自分の画面の組み立てや友達の下絵を見て、よさや自分とのちがいに気付くことができている。(鑑賞の能力)

準備

- 下がき ○ 30cm×45cmの枠
- 4 B鉛筆 ○ 図工ノート ○ 総合ノート
- コピー機 ○ 菊 ○ 菊づくりの写真
- 画面の構成のヒント資料

本時の指導と評価の考え方

本時の指導は、前時までの菊づくりの経験を下がきを資料を参考にしながら、自分の表したいことがはっきりとわかるような画面の構成を工夫することが主なねらいである。

そこで、まず、本時の指導と評価にあたっては、前時までの菊づくりの経験から喜びや苦労などから版に表していくことを決めて下絵をかいた事を想起し、本時のめあてを学習計画に沿って話し合い確認するようにする。この時、菊づくりの経験を豊かに想起したり表現への意欲をもつように、菊の花を展示したり菊づくりの過程を写真資料で展示する。

次に、主題を明確にするための画面の構成をするために、次のようなヒント資料を提示し構成の工夫に気付くようにした

- ① 場面を拡大・縮小した資料
- ② 画面の枠組みを考える資料
- ③ 一部分を縮小した資料
(例えば、人や菊を非常に小さくかいたらどんな感じになるか。)
- ③ おもいきって単純化した資料。
- ④ 人と菊の前後関係や菊と菊との重なり関係資料(主題を大きく、他を小さくかき、その対比で主題を強めるとともに、画面に変化を出させる。)

そして、資料を参考にしながら自分の表したいことがはっきりとわかるような画面を考えるようにする。この時、版木と同じ大きさの枠30×45を準備しておき、操作しながら自分の表したいことが表れるような画面を試行錯誤しながら考えていけるようにする。また、効率よく下絵を完成させたり意欲の減少を緩めたりするためにコピー機を活用することも考えたい。教師は、前時までの子どもとの対話や図工ノートからの子どもの思いや願いをもとに、本時での子ども一人一人への支援を個別に準備しておくことで、本時の評価規準に到達できるようにしていきたい。また、机間巡視をしながら子どもの思いを聞き、活動の演示や賞賛、励ましをしていきたい。

活動の途中、友達の話の工夫を紹介するなどしてよさを広げるようにする。

最後に、今日のめあてにそって学習のふり返りをするとともに、版木に転写したものを紹介し次時への意欲へとつなぎたい。

本時の評価にあたっては、評価の計画に従って設定した評価規準をもとに学習状況を観察や対話、下絵をもとに見取り、評価補助簿を活用しながら評価していくようにする。また、本時の評価をもとに、教師の指導を見直したり、次時からの子ども一人一人の思いや願いに応じた指導に生かしていくようにしたい。

本時の指導と評価

学習活動と内容	学習活動における具体的評価規準	指導（活動提案・材料提供など）
<p>1. 前時の学習を想起し、本時の学習のめあてを話し合う。</p> <p>学習のめあて</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>菊づくりの経験から自分の表したことがはっきりとわかるような画面を、自分と菊の大きさや位置などを考えて下絵をかこう。</p> </div> <p>2. 主題を明確にする画面の構成を話し合う。</p> <p>(1) 資料から画面の構成について比較する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・菊や人物を拡大・縮小した画面を比較した画面の構成 ・単純化した画面の構成 ・空間を効果的にした画面の構成 ・重なりのある画面構成 <p>3. 主題を明確にする画面を構成し、下絵を完成する。</p> <p>(1) 資料を参考にしながら、自分の表したことがはっきりとわかるような画面を工夫する。</p> <p>(2) 友達と画面の構成を交流する。</p> <p>(3) 下絵を完成させる。</p> <p>4. 本時の学習をまとめる。</p> <p>(1) 学習のめあてにそって、今日の学習を振り返り、次時の学習は、版木に転写することを知る。</p>	<p>(発) 菊と自分とのかかわりで表したいことを思い付き、木版画の白と黒の表現を生かし、主題が明確になるように、中心になるものとまわりの様子を強調・省略して画面の構成を考える。</p> <p>(創) 菊を育てた経験から主題が明確に表れるように、自分と菊との配置やまわりの様子を考え下絵を描いている。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>・画面の構成をしている様子を観察したり下絵を見たりして見取る。 (下絵、図工ノート、観察)</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・育てた菊や菊づくりの過程の写真資料などを提示し、表現意欲を喚起する。 ・図工ノートや対話から子どもの自分と菊との関わりで表したいことを把握しておき、本時での個に応じた手立てを準備しておく。 ・主題を明確にするための資料を準備し、構成の工夫の効果を視覚的に捉えられるような資料を準備する。 ・版木と同じ大きさの45×30を準備し、操作をしながら画面を考えられるようにする。 ・画面の構成のための資料コーナーを設置しておき、自由に確かめられるようにしておく。 ・コピー機を準備し、繰り返しかくことによる意欲の減少をカバーするとともに、効率よく自分のイメージを具体化できるようにする。 ・転写した版木を提示して、次時への意欲をもつようにする。 ・図工ノートにめあてにそった学習の振り返りをするようにする。